

サロンの様子



最後には参加者の方に結果報告をしていただきました！



川崎区



幸区



中原区



高津区



宮前区



多摩区



麻生区

平成24年度 緑の交流サロン報告書

(財)川崎市公園緑地協会では、平成23年度に川崎市内で活動されている方々の団体間の交流や情報の交換を行うことにより、課題の解決や活動団体間の連携に繋げていくことを目的として「緑の交流サロン」を開催しました。サロンについては継続を希望する意見も多くいただき、平成24年度もサロンを実施しました。

今年度実施したサロンでは、講師による講演や、活動団体間での交流を目的とした意見交換会を行い、参加頂いた方々には和やかな雰囲気の中、日頃の活動や困っていること、楽しみにしていることなどを話していただき、活発な意見交換を行うことができました。

サロンスケジュール

- ① 開会の挨拶、説明、スタッフ紹介
- ② 講演
- ③ 講師との質疑応答
休憩
- ④ 参加者紹介
- ⑤ グループに分かれてのワークショップ
(意見交換)
- ⑥ 結果発表
- ⑦ まとめ、記念撮影、閉会の挨拶



講師による講演

地域の特徴に合わせ講演内容を大きく2つに分け、花壇づくりに関する講演では「プロに学ぶ花・緑づくり」として緑花植物アドバイザーである内海栄一さん^{うちみえいいち}、里山保全活動に関する講演では「次世代につなぐ里山づくり」をテーマとして県立茅ヶ崎里山公園倶楽部会長である小此木宣夫さん^{おこのぎのぶお}の、2人の講師の方に講演を行っていただきました。

対象区	講師	参加者数	日時	場所	
第1回	川崎区	内海氏	13団体(13名)	平成24年7月27日(金)	川崎区役所
第2回	幸区	内海氏	8団体(16名)	平成24年8月24日(金)	幸区役所
第3回	中原区	内海氏	10団体(12名)	平成24年9月28日(金)	中原区役所
第4回	高津区	内海氏	11団体(21名)	平成24年10月26日(金)	高津区役所
第5回	宮前区	小此木氏	14団体(18名)	平成24年11月22日(木)	宮前区役所
第6回	多摩区	小此木氏	13団体(15名)	平成24年12月7日(金)	多摩区役所
第7回	麻生区	小此木氏	9団体(15名)	平成25年1月25日(金)	麻生区役所

本年度も多くの方にご参加いただき、活発な意見交換をすることが出来ました。

平成25年度も開催する予定です。是非、ご参加ください。



人手不足

人手が足りない 新規会員が増えない

①地域とのつながりを大切にしよう

- ・地域の方とつながりを持って進んで手伝いをしてくれる。
- ・活動を通じて地域の人と交流することが大切。
- ・活動を近隣の方々の交流の場にする。

②活動する時は周りのみんなに知らせよう

- ・自分たちが何かをする時に必ず町内に連絡する。
- ・行政の広報で、活動やイベントを周知する。
- ・この日は活動していると知らせると集まってくれる。
- ・季節の変わり目に草や花を植える時、集合を呼び参加してもらう。

③活動をPRしよう

- ・やっていることをPRすることが必要。
- ・活動PRイベント、チラシ、市の広報でお知らせする。
- ・活動をする時には腕章をする。
- ・コンクールに出して活動をアピールする。
- ・花壇の写真等を作って見せると興味を持ってくれる。
- ・種や花を渡して、少しでも興味を持ってもらうきっかけにする。
- ・きれいですねと声をかけてくれた人には声をかける。
- ・活動の報告をする。

④イベントをきっかけにしてみよう

- ・花の植え替え、イベントなどは声をかけると参加してくれる。
- ・地元と連携してイベントを行う。
- ・イベント参加をきっかけに会員になった人もいます。
- ・イベント時に家族で参加してもらい、その時に草取りもする。
- ・花植作業をイベント化する。

⑤参加形態を多様化して活動できる人を増やす

- ・作業日、作業時間を拘束しない。時間を短く集中して作業する。
- ・活動日を土日にして色々な人が参加しやすい工夫をしたら参加者が増えた。
- ・出来る日だけでも良いので来てもらって継続してもらう。(拘束はしない)
- ・メンバーに入らなくても活動できるようにする。
- ・出来ることを出来る範囲で無理をせず楽しみながら活動する。
- ・なぜこの活動をするのか振り返る。
- ・自分のものであるという気持ちでいることが大事。



花の育て方・選び方

花をキレイに育てる方法を知りたい 土が悪くて困っている 花の選び方が難しい 毎回同じ花になってしまう？

①キレイに育てる・見せる工夫

- ・自然の花を見せるのが良い。
- ・昔からあった花で季節感を子供に感じてもらうことが必要。
- ・花がら摘みをこまめに行う。
- ・花期の長いものを選ぶ。
- ・冬に春用の苗、春に夏-秋用の苗を植える。夏は6月に植えている。



②水やりの工夫

- ・水やりが大変な場合は、花木を植える。
- ・日陰にアジサイなど手間の掛からない花を植える。
- ・プランターを2段にして下段に水を入れている。
- ・ペットボトルで水を運んで持って行く。
- ・水がなくても丈夫な植物を植えるなど工夫する。

③土づくりの工夫

- ・有機肥料(ダンボールコンポスト)を作っている。コンポストだけの会員もいる。

④他の事例を参考にしてみよう・プロに聞いてみよう

- ・色々なタイプの花壇をめぐるウォーキング(花壇の見学めぐり)をして参考にする。
- ・花の種類は農家の人に決めてもらっている。
- ・桜の木の下は菜の花にすると相性が良い。
- ・ストック、ピオラが育てやすい。
- ・実の成るものを育てている。
- ・植え替えの手間がかかるので、エンゼルトランペット、アジサイ、ユリ、セージ等の花木、宿根草に移行している。



発生材の処理・里山や公園の管理

発生材の活用方法を工夫したい 活動や管理の工夫

①工作物に活用する

- ・土留め、階段、柵に使う。
- ・竹は柵に利用している。
- ・ベンチなど工作物にする。



②炭焼きにする

- ・炭焼きにしている。
- ・団体間で連携して竹炭作りができるようにする。
- ・発生材を決まったサイズにして運び、炭焼きの釜を貸すしくみをつくる。
- ・木酢液はシロアリ防止用に活用する。
- ・切った材はチップにして播く。



③できるだけ小さくする工夫

- ・枝は小さくして踏むとより小さくなる。

④貴重な植物があるときは手刈りにしよう

- ・貴重なものは印をしておかないとなくなってしまうので手で刈るようにしている。

⑤活動や管理の工夫

- ・竹林管理は計画を立てて、ふりかえる。
- ・竹林管理と竹の子の扱い、活用のルールづくりが必要。
- ・団体間で連携した生き物調査ができると良い。
- ・林の中の自然に触れあう作業場が良い。
- ・竹は管理が大変なので、木に代える。



安全管理・盗難防止・まちの安全・マナー

作業時の安全管理・注意事項が大変 花や苗、竹の子などを盗まれる、ゴミを捨てられる

①保険に加入し、危険な作業は役割分担をする

- ・子供の参加は保険の加入、作業の分配などで対応している。
- ・子供に体験させるイベントはケガの無いように十分に気をつける。
- ・注意事項を話し保護者の理解を得ておく。
- ・子ども達にはある程度の作業にする。
- ・水遊び等での安全(ガラス片)などを確認する。



②必要に応じた対応と声かけで安全に作業する

- ・安全体操、声かけをして安全管理を行っている。
- ・広報に注意事項を書いている。
- ・作業に応じてヘルメットをするようにしている。



③看板を設置すると盗まれにくくなる

- ・会の名前と活動紹介を掲示すると盗まれにくい。
- ・子供のための竹林と書いておく盗人が少ない。
- ・「小学校の教材にします」という看板を立てると盗られない。
- ・小さい苗はなるべく柵の中で育てる。
- ・盗られても一喜一憂しない。

④花があるとゴミが捨てられにくくなる

- ・プランターを置いてゴミ置き場にしない。
- ・花があるとゴミが捨てられない。
- ・パトロールをしているとゴミが減る。



⑤緑や花があることで防犯になる

- ・緑や花があれば防犯、防火にもなり通学や通勤などにも安心、安全な町になる。
- ・安心、安全なまちづくりには景観をよくすること。

世代交代

若い世代への担い手が不足し、高齢化している

①親子をターゲットにする

- ・若い世代を取り込むには、大人向けのメニューにする。
- ・子供は飽きっぽいので、大人が楽しめるものにする親が夢中になる。
- ・子供向けだけにしない。



②親子向けのイベントを開催する

- ・花壇活動に親子で参加してもらう。
- ・花植のイベントなどは父母が楽しめる。
- ・先生や親への教育が必要。子供にいろいろな体験をさせられる。
- ・親子で楽しむ自然観察会は参加者が多い。



③子ども達に大人になって戻ってきてもらう工夫をする

- ・活動後に参加した子ども達にその後どうなったか、ハガキを出す。
- ・子供の頃植えた木の生長した姿を見せる。

④学校と連携した活動や取り組みを行う

- ・幼稚園が利用することを考えた管理を行っている。
- ・後継者づくりに学校と関わっている。
- ・学校で生徒がボランティア活動すると成績になるしくみづくり。
- ・日常の維持管理活動の中で学校の受け入れをしている。
- ・アジサイの苗を育てるのを近くの学校と一緒にしている。



運営の工夫・担い手の育成

今後の会の運営について不安

①人材育成で担い手を育てよう

- ・若い人に教えながら作業する。
- ・指導に熱が入ると遠のくので、楽しく活動することを考慮する。



②団体間で連携しよう

- ・団体間の横の繋がりとして連絡会をつくり、イベントも一緒に行う。
- ・会の運営には適材適所の人材を当てはめることがイベントの成功に繋がる。
- ・団体間や団体内でもイベントで交流が深まる。

③持続するための工夫

- ・年に1~2回他の公園などを見学している。
- ・女性や同じ年代の人にペアで活動してもらおうと良い。
- ・花と緑、水に関連した市民活動グループのネットワークがある。



④近隣へ配慮して活動を行う

- ・年1回竹炭作りを行う時には、事前に近所にお知らせしているため、苦情は来ない。

「活動をしていてうれしいこと」についてもお聞きしました。

- ・人とのつながりが生まれること。人と人がつながることで地域が良くなる。
- ・大好きな花作りも楽しいが、その他の日常生活も付き合いが出来た。
- ・花の好きな仲間と作業するのは楽しく、作業の後の飲み語りも楽しい。
- ・人から「きれいですね!ご苦労様!ありがとうございます!」「良い所ですね」「癒されます」「写真をとったよ」など声をかけられるとうれしい。
- ・花がきれいに咲いたとき。コンクールで大賞をいただいたこと。

